

症例をそのままコピーペーストした場合は試験不合格の事由にあたります。

受験番号兼申請番号	医・歯・技
-----------	-------

(この上の欄には記入しないで下さい)

西暦 20 年 月 日

症例番号	1
------	---

<p>医療機関： 病院 睡眠医療センター 57歳 男性 会社員</p> <p>主訴および主症状： いびき、無呼吸</p> <p>診断： 閉塞性睡眠時無呼吸症候群（重度）</p> <p>既往歴： 4年前より高血圧で治療中</p> <p>現病歴： 高血圧治療開始前後より、大きいいびきと無呼吸を指摘されていたが放置していた。4年前から日中の眠気を感じていた。今回は、いびき、睡眠時無呼吸の精査の目的で来院した。</p> <p>家族歴： 母 心筋症</p> <p>心身の一般的所見： 呼吸数 13 回/分、心拍数 70 拍/分、不整なし。血圧 142/86mmHg。 身長 170cm、体重 98Kg、BMI 33.8 kg/m²、ESS 15/24 点。</p> <p>臨床検査成績：</p> <p><u>入院時血圧</u>は 148/100mmHg</p> <p><u>採血による検査成績</u>は RBC 501 万/μl、WBC 6100/μl、Hgb 16.7 g/dl、Plt 18.6 万/μl、fib 364mg/dl、AST 24 IU/l、ALT 42 IU/l、K 3.6mEq/l、T-cho 201mg/dl、TG 134mg/dl、HDL 64mg/dl、Glu 90mg/dl、IRI 7.0 μl/ml、HbA1c 5.0%であった。</p> <p><u>呼吸機能検査</u>では V C 2.8L(79%)、FVC 2.8L(79%)、FEV_{1.0} 1.9L、FEV1.0% 69.5%、V25/HT=0.20 l/s/m(16.7%)であった。</p> <p><u>心電図</u>に異常を認めなかった。</p> <p><u>入院時 P S G の成績</u></p> <p>睡眠状態は TIB 446.5 分(7 時間 26 分)、SPT 436.5 分(7 時間 16 分)、TST 399 分(6 時間 39 分)、睡眠効率(TST/TIB×100) 89.3%、入眠後の覚醒時間 37 分(8.5%/SPT)、入眠潜時 3 分、REM 潜時 299.5 分、睡眠 stage 1 184.5 分(46.2%)、stage 2 187.5 分(35.5%)、stage3 0 分(0%)、stage 4 0 分(0%)、stage REM 27 分(6.8%)であった。</p> <p>睡眠中の呼吸状態は AHI 70.8 回/時間(AI 56.5 , HI 14.3)で、無呼吸のタイプとしては閉塞性 271 回、中枢性 9 回、混合性 96 回、低呼吸 95 回であった。末梢血酸素飽和度(SpO₂)は覚醒時 96%、睡眠中で平均 89%、最低 78%であった。その他 arousal は 395 回(Index 59.4 回/時間)、P L M は認めないが L M 32 回を認めた。</p> <p>上記ポリグラフの結果から CPAP 療法の適応と判断し翌日 titration study を行った。CPAP 圧は 9cmH₂O 以上で著しい改善が見られ、CPAP 最適圧は 12 cmH₂O と判定した。その際の SPT 380.5 分、SO 36.0 分、睡眠効率 91.4%、S 1 13.7%、S 2 45.3%、S 3 7.5%、S 4 0.3%、REM 33.2%、無呼吸のタイプは中枢性 2 回、低呼吸 24 回、AHI は 4.1 回/時間、SpO₂ は平均 95%、最低 89%(1 回のみ)となった。</p> <p>その他耳鼻科的には特に問題はなかった。</p>

症例をそのままコピーペーストした場合は試験不合格の事由にあたります。

症例番号	1
<p>鑑別診断： いびき、無呼吸の指摘、日中の眠気（ESSは15点）あり、PSGでは呼吸イベントは閉塞性無呼吸が主体で、AHIは70.8回/時間と高値、最低SpO₂は78%と、低酸素血症も高度であり、またArousal indexは59.4回/時間、睡眠構築ではstage1が増加し、stage3+4の欠如を認め分断睡眠も著明であった。CPAP titrationでは殆どの値が改善し、重度の閉塞性睡眠時無呼吸症候群と診断した。また高血圧の存在あり、心血管合併症に関して評価が必要である。また呼吸機能検査からは軽い混合性障害が認められ、肺疾患の合併、高度肥満からは肥満低換気症候群も鑑別する必要がある。</p> <p>治療方法： 在宅持続陽圧呼吸（CPAP）療法を導入した。</p> <p>治療効果を含めた経過： 栄養及び運動療法による減量指導を行い、CPAP圧12 cmH₂Oにて在宅療法を継続中である。</p>	
<p>上記の症例に関する診療あるいは検査および報告書作成を指導したことを確認します。 西暦 年 月 日 学会認定医,学会認定歯科医,学会認定検査技師 (学会認定証の番号:) 所属診療科の長(該当する事項を 印で囲って下さい) 医療機関と診療料名および職名 病院 睡眠医療センター 部長 氏名 印</p>	
審査員のコメント	
審査結果：合格,保留,不合格	担当審査員の氏名